

「キリスト教会における権威と説明責任」

中心聖句：ヘブル 13：17

あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。

皆さん、おはようございます。今日のメッセージのタイトルを見て、5ヶ月ほど前に「アカウントビリティ」をテーマにした説教をしたことを思い出されたかもしれません。今年の春、高名なクリスチャン指導者のインタビューを聞いたことがこの説教の着想を得たきっかけです。そのインタビューは、クリスチャンの兄弟姉妹に対する説明責任を聖職者に果たしてもらうことの重要性についてでした。一方、今日のメッセージの焦点は全く違います。今日のメッセージは、1年半ほど前に、教会生活、教会指導者、教会組織について考えていた時に、思いつきました。今日の説教は3つの部分に分けています。

パート1：教会指導者について

パート2：教会組織について

パート3：会衆の教会生活について

では、パート1から始めましょう。まず、ヘブル 13：17 を読みましょう。ここには、私たちについて、教会指導者について、そして、指導者との関わりについて書かれています。

「あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。」

この箇所を始めに注目したい点は、牧師や長老の基本的な仕事内容についてです。それは、私たちのたましいの見張りをすることです。牧師や長老は神に召されて、与えられたクリスチャンの群れを牧会する任務に就いています。私たちはみな、神のみことばの教えや、教えの実践の奨励を必要とします。誰もが、神の基準に沿った生き方から外れてしまう可能性があり、実際にそうなることもあります。私たちの指導者は私たちのたましいを見守っています。神から離れ続ければ、神にある身分や神との関係、そして仲間のクリスチャンとの関係を損なうこととなります。ですから、指導者が教え、勧めることに耳を傾けてください。彼らは完璧ではありませんし、時には心が狭いとか古いと感じるかもしれませんが、たいていの場合、指導者は聖書的に正しいことが何かを知っているのです。私たちは彼らの指導に従うべきです。これは主に、行動面についてです。つまり、一人の信徒として、また教会全体として、クリスチャンとしてどのように生きるかということです。同時に、牧師は健全な教義が教会の主流となっていることを確認する必要があります。神や救いについての間違った見解は、私たちのたましいにダメージを与えます。

英語の新国際訳聖書では、この箇所の始めの部分を「リーダーを信用し、その権威に従いなさい…」と訳しています。彼らは厳しい訓練を受け、神の群れを見守る立場に置かれ、牧者としての経験を積んできました。彼らを信頼しましょう。……彼らを信用しましょう。

この箇所には、指導者が「この人たちは神に申し開きをする者として、」とあります。これは、彼らが自分の群れをどのように牧会したかについて責任を問われるということです。これはおもに、私たち全員がイエスとお会いし、最後に裁かれるときに、彼らが神から説明を求められるという意味だと考えます。第二コリント 5:10「私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。」

しかし、ヘブル 13:17の「この人たちは神に申し開きをする者として、」というのには、牧師仲間や教団の指導者にも説明責任を負うべきだという意味もあるかもしれません。そのような監視がなければ、彼らは道を逸れたり、怠けたり、無駄なことをしたりしてしまう可能性があります。ガラテヤ 2:1-2にある使徒パウロの言葉が思い浮かびます。

「2:1 それから十四年たって、私はバルナバと一緒に、テトスも連れて、再びエルサレムに上りました。2:2 私は啓示によって上ったのです。そして、私が今走っていること、また今まで走ってきたことが無駄にならないように、異邦人の間で私が伝えている福音を人々に示しました。おもだった人たちには個人的にそうしました。」

パウロは、自身が異邦人に宣べ伝えている福音をヤコブ、ペテロ、ヨハネに紹介しました。間違いを指摘される可能性を考えて内々でそうしたのですが、6～9節を読むと、彼が説いた福音のメッセージについて、彼らの承認を得たと書かれています。これは、パウロがキリスト教コミュニティの指導者に対して説明責任を果たしていることを示しています。パウロは使徒という地位にありながら、エルサレム教会の指導者たちに自分の考えが正しいかどうかを確認する必要があったのです。また、使徒 15章では、エルサレム教会が物議をかもしくつかの問題について話し合い、解決策を見いださなければならなかったというエピソードもあります。

今日の中心聖句の後半を見てみましょう。私たちが教会指導者に従うとき、「この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。」私たちは、指導者の頭痛の種になるのではなく、彼らが喜んで指導できるように指導者についていくべきです。今から20年近く前、ある牧師との間で摩擦があった経験についてお話ししましょう。彼は、教会に新しいことを導入したいと考えていましたが、私はいくつか懸念がありました。その新しいことの内容は割愛しますが、教派や教団によって意見が異なることでした。私はこのことについて彼と何度か話し合い、どうも頭痛の種を与えてしまったようでした。しかしその後、彼が神によってその立場に置かれ、私たちのたましいを見守ることを神から託されている、ということに気付きました。私は言うべきことを言い、あとは彼が会衆のために最善と考えることに任せました。彼は私の懸念を考慮した上でその改革を進めてくれたので、結果的によかったと思っています。

その後、他にも自分の考えや懸念をこの牧師に伝え、時には彼に頭痛を与えた人が何人かいました。この教会には様々な教派や文化の人がいて、教会生活のありかたについて異なる考えを持っています。牧師は、自分のところに寄せられた様々な考えや懸念に対処しました。すべての人を満足させることはできませんから、当然、がっかりした人もいまし

た。しかし、そういう様子を見て、私は牧師の頭痛の種にならないように、少なくとも大きな頭痛の種にはならないようにしようと決意しました。その2年後、私は別の問題を指摘したかったのですが、やんわりと伝えたので、とても気持ちの良い会話となりました。私は自分の見解を彼に伝え、それが適切だと思ってくれるならそれを実行してくれればよいと思いました。それは彼に与えられた権利であり、召しだからです。私たちのたましいと会衆全体の健全性を見守る責任があるのは牧師なのです。私はその牧師とのやりとりで学んだ教訓を、その後の牧師とのやりとりに生かしてきました。

17節の最後の部分はこう語ります。「ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。」牧師や長老が嘆きながら群れを導かなければならない原因を私たちが作るなら、それは、自分にも指導者にも教会にも益にはなりません。

ここまでは、神が私たちのたましいの見張り役として牧師を召されたのだから、牧師に従うべきだという理想論を並べました。しかし、人間誰でも過ちを犯す可能性がありますから、経験不足や配慮不足のためにがっかりさせられることもあるでしょうし、職権乱用することもあるでしょう。指導者にできるだけ従うべきだと言っても、奴隷のように有無なく聞き従うことを勧めているわけではありません。指導者のほうが道を踏み外している場合もあり、その問題を指摘されて正されなければならないときがあります。聖霊の導きと、悔い改めと赦しがあれば、問題は解決できます。しかし残念ながら、人間のプライドや罪深さが邪魔をすることもあります。さらに、牧師や宣教師、伝道者は霊の戦いの最前線にいて、敵であるサタンと悪霊の標的になっていることを覚えておいてください。どうか、牧師や宣教師、教会役員、日曜学校の先生など、奉仕に関わるすべての人のために祈ってください。敵はその人たちに狙いを定めますから、皆さんの熱心な祈りが必要です。

それでは、次の箇所に進みましょう。ここでは、牧師に対する勧めが列挙されています。肯定的な内容と否定的な内容の両方があります。

第一ペテロ 5:1-4 「5:1 私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じ長老の一人として、キリストの苦難の証人、やがて現される栄光にあずかる者として勧めます。5:2 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。5:3 割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。5:4 そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しぼむことのない栄光の冠をいただくこととなります。」

長老へのひとつめの勧めは、「神の羊の群れを牧しなさい」です。この部分は、英語の聖書ではふたつの動詞が使われています。ひとつめは「牧す」です。この単語のラテン語は「パスター」で、教会を導く牧師を意味する英単語「パスター」の語源となっています。ふたつめの動詞は「監督する」です。牧師は人々を見守ります。囲いから迷い出ることのないように目を向けます。「長老」という言葉は、この役割を指す名称です。「牧す」

「監督する」という動詞は、この人がすることです。実は、「長老」と「牧師」は同じ職務なのです。

羊飼いが野原で羊を見守っているとき、どんなことをしていると思いますか。まず、羊たちがえさを食べられる牧草地に導きます。教会の牧師は、聖書の教えで信徒を養います。そして、信徒たちが自分で聖書を読み、聖書から自ら糧を得て、読んだことを実践するように勧めます。

羊飼いのもう一つの仕事は、羊を守ることです。世の中には、道を踏み外させようとする誘惑がたくさんあります。牧師は、そのような誘惑から逃げるように警告し、もし罪を犯してしまったら、悔い改めるように呼びかけます。他にも、間違った教えを警告するなど、様々な方法で私たちを守ります。

羊飼いは、個々の羊が怪我をしたり病気になったりしたときに、特別な配慮が必要な羊の世話をします。牧師は、私たちが心やたましいの問題で悩んでいるときにカウンセリングを行います。また、入院した信徒を見舞い、身近な人を亡くした信徒を慰め、寄り添います。

もう一度 2 節を見てみましょう。牧師は、強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をすることが求められています。

3 節では、先ほど触れた問題が取り上げられています。牧師も過ちを犯す人間であり、職権乱用してしまう可能性があることを指摘しました。この箇所ではペテロは、この誘惑に焦点を当て、長老や牧師が人々を支配してはいけないと警告しています。3 節には、「割り当てられている人々を支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい」とあります。教会の人々は、牧師に「割り当てられている人々」、託された人々なのです。これは、神に与えられた神聖な任務です。牧師はそのことを心に留めて、支配的な存在や独裁者にならないように気を付けなければなりません。テトス 1:7「監督は神の家を管理する者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気でなく、酒飲みでなく、乱暴でなく、不正な利を求めず、」

むしろ、「群れの模範」となるべきです。私たちの牧師は、模範的なクリスチャンの見本であることが求められます。私たちのお手本です。パウロがコリント第一 11:1 で記した言葉が思い出されます。「私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。」

それでは、今日のメッセージのパート 2 に進みましょう。教会組織についてです。

教会組織の形態には複数のパターンがありますが、大きく 3 つに分けることができます。独自の組織形態を取る教派もありますが、今日説明する 3 つが主流です。この 3 つの形態は次のとおりです。

1. 監督制

2. 長老制

3. 会衆制

監督制は英語でエписコパルと言いますが、これは、第 1 テモテ 3:1 やテトス 1:7 などで使われている「主教」や「監督」を意味するギリシャ語に由来しています。このギリシャ語「エписコポス」はラテン語にも採用され、古典英語で *biscep* と転じ、現代英語の *bishop* という言葉になりました。

長老制は英語でプレスビテリアンと言いますが、この名称は、ギリシャ語で「老人」や「長老」を意味するプレスビテロスに由来しています。この単語は、テトス 1:5、第一ペテロ 5:1、および使徒の随所で、教会の指導者に対して使われています。

先ほど、「長老」「監督」「牧者」「牧師」という言葉は、基本的にすべて同じ役職を表すものだとお話ししました。しかし、教会の歴史の中で、広域の複数の教会を監督する責任を持つ教会の聖職者に対して、監督・主教という言葉が使われるようになりました。ローマカトリック教会や東方正教会のような古い歴史を持つ教会は、司教や大司教が強力な階層組織の中で統治し、司祭や助祭が地域教会レベルで奉仕するという、いわゆる監督制の教会組織形態を採用しています。この形態では、司教と大司教は使徒の後継者とみなされ、大きな力を持っています。この形態では、司教や大司教は使徒の後継者とみなされ、大きな権力を持っています。権威と説明責任の範囲は明確に示されています。

どんな組織にも長所と短所があります。教会生活や正統な神学を守る上で、安定性が担保される一方で、圧迫感があつたり、不完全な人間が指導者階級に立つので、中世には腐敗や不適格な人事配置が頻発しました。

中世になると、このような状況に対する不満が高まり、プロテスタントによる宗教改革が起こったことで、ヨーロッパの聖職者のあり方が変わっていきました。宗教改革は「信仰のみをとおした恵みによる救い」という教義の再発見であると考えていますが、ローマを中心とした腐敗した教会組織からの解放を求めたことも重要な契機となりました。英国国教会や一部のルーテル教会のように、宗教改革時代の教会の中には、監督制の組織形態を採用しているところもありますが、大半の教会は別の方法で組織運営をはかりました。

カルヴァン派の教会は、長老制の教会組織形態を採用しています。長老制の英語はプレスビテリアンで、新約聖書の長老を意味する単語プレスビテロスに直接由来しています。この形態では一般的に、地域教会の指導的役割を複数の長老が共有します。最高権威がキリストと神のみことばにあることを念頭に置いて、責任が共有され、説明責任が果たされます。また、この制度では、地域教会がより大きな管轄区に属しており、これらの教会のそれぞれが、管轄区内のすべての教会を監督する「長老会」と呼ばれる機関に代表者を送っているため、説明責任が果たされます。この形態では、地域教会は独立した組織ではなく、地域教会で決定されたことが長老会によって覆されることもあります。これは、大きな組織が考える適切な教義と実践から地域教会が逸脱しないことを担保するための説明責任のシステムです。

宗教改革が始まった当初から、プロテスタント諸国で形成された国教会に納得できないクリスチャンが大勢いました。彼らは、聖書に書かれていることに従って信仰生活を送りたいと望んでいました。イギリスでは、多くのクリスチャンが、国教会が要求する礼拝の形式を好まず、それに従うことを望みませんでした。彼らは国教会を離れて自ら教会を作ったため、厳しい迫害を受けました。大勢が国外退避を余儀なくされ、多くの人々がアメリカにある植民地に向かいました。彼らは信仰の自由を求めていたのです。私はアメリカ人ですから、この歴史は私にとって大切な文化的背景の一部です。

信仰の自由を求めて多くの地域教会が形成され、会衆制の教会運営形態が生まれました。外部の権威に支配されるのではなく、キリストと神のみことばの権威のもと、地域教会が自らの責任で組織を運営します。こうして、信徒全体が意思決定に関わります。これは、プロテスタントの「万人祭司」という原則を反映したもので、すべてのクリスチャンが神に直接つながることができる、すべてのクリスチャンに聖霊が内住されているという信条です。

そうであれば、私たち全員が教会生活に参加することができますし、そうすべきです。会衆制では、教会員が共に重要な決定を行います。また、私たちはお互いに説明責任を果たすことが求められます。会衆制度では、教会員が指導者を選びます。信徒の長老、執事、教会役員などの信徒リーダーだけでなく、牧師の選任も教会員が行います。

OIC が採用しているのはこの制度です。これは民主的な制度ですから、会議を開くと、多くの人々の意見が上がります。意見が多く出すぎると思われるかもしれませんが、意思決定の過程では、さまざまな視点からの声を聞くことが必要だと思います。よく思い出すのは、箴言 24 章 6 節の「多くの助言者によって勝利を得る」という一節です。このようなプロセスを経ることで、私たちはそれぞれの懸念や見解を共有することができます。すべてを知っている人はいませんし、特定の問題について誰かに指摘されるまで気づかなかった側面が表出することもよくあります。あらゆることを考慮すべきです。そして、投票を行います。私が投票したほうの意見が通らなかったこともあります。この制度が機能するためには、意思決定の一連のプロセスが完了したら、全員が結果を受け入れます。そのような理想のもとで、私はこの過程を実践しています。

さて、教会組織についてはこれくらいにしておき、次に進みましょう。

パート 3：会衆の教会生活について

この部分では、教会の内外を問わず、クリスチャン同士の関係に焦点を当てたいと思います。私たちクリスチャンの関わり合いに関して教える箇所について考えることがあります。それらの箇所を、教会家族である皆さんと分かち合いたいと思います。この教会家族に問題があるからではありません。クリスチャン同士の接し方について一般的にどうあるべきか、という意味でお伝えします。私たちは皆、恵みによって救われた罪人ですから、捨てるべき古い生き方がまだ残っているからです。

若い頃にクリスチャンの先輩から受けたある教えが今でも忘れられません。彼は、創世記 4 章 9 節で主に弟の居場所を尋ねられたときのカインの返答について指摘しました。カイ

ンは、「私は知りません。私は弟の番人なのではないですか」と言いました。カインは、居場所を尋ねる神の質問に答えるのを避けてこう言ったのですが、「私は弟の番人なのではないですか」という問いへの答えは「はい」と先輩は言いました。私たちには家族の世話をする責任があり、それは神の家族である教会も同じだということです。彼らの世話をし、互いに正しい関係を築く責任があるのです。今日の私のメッセージのこの部分は、このような思いから生まれたものです。

ここでは、このテーマに関する多くの考えや聖書箇所のうち、いくつかだけをご紹介します。もしかしたら、今後のメッセージでもっとご紹介するかもしれません。今日は、「赦し」「愛」「励まし」という基本的なテーマに触れてみたいと思います。

赦し

赦すこと以上に信仰生活の基本となることがあるのでしょうか。キリストは私たちの罪を赦すためにこの地上に来られました。

ルカ 24:46-47 「24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。『キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられる。』エルサレムから開始して、」

神がキリストをとおして私たちの罪を赦してくださったように、私たちも自分に罪を犯した人を赦さなければなりません。エペソ人への手紙 4 章 32 節で、パウロは教会に次のような言葉を贈っています。「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。」

イエスはマルコ 11:25 で、こうおっしゃいました。「また、祈るために立ち上がるとき、だれかに対し恨んでいることがあるなら、赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの過ちを赦してくださいます。」

聖書通読をする際、この箇所が気になることがあります。私たちは、誰かに恨みを持ちながら、神の御前で祈り、礼拝することはできません。その人を赦す必要があるのです。

マタイ 6:14-15 でイエスは言われました。「6:14 もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。6:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しになりません。」

耳の痛いことです。天の父が私を赦してくださらないのでしょうか。ちょっと恥ずかしい昔の話をしたと思います。私は 1990 年代に、あるクリスチャンの兄弟に赦せないという思いを抱いたことがあります。私は、彼が現れなければよかったのにと思いました。彼は、私が当時両想いだった女の子を奪ったからです。彼女は私に夢中で、私はそのことを実は少々プレッシャーに感じていました。彼女のことは好きでしたが、迫られてではなく、自分の意志で彼女を選びたかったのです。それで私が少し引いた途端、教会に新しく来た男性が彼女に興味を示したのです。私は彼に彼女を奪われました。彼はとても誠実な人でしたが、彼が現れなければよかったのにと私は思いました。何年もの間、私は彼に大

きな恨みを抱いていました。赦したつもりでも、クリスチャンの交わりの中で過ごしていても、あの男のことを思い出すと、怒りが湧き上がってきたのです。

ヘブル 12:15 「だれも神の恵みから落ちないように、また、苦い根が生え出て悩ませたり、これによって多くの人が汚されたりしないように、気をつけなさい。」

私には「苦い根」があり、それを放置していました。数年後、私は「この人を赦せないなら、自分はクリスチャンとは呼べない」と気づきました。そして私は決断しました。己よりもキリストを選んだのです。私はへりくだって、罪を徹底的に告白し、すべてを過去のものとししました。ちなみに、1990年代は OIC に通い、この教会で活動していましたが、この教会の正式な教会員になったのは、1999年にその問題を解決してからです。

あなたは誰かに対して「苦い根」を持っていますか。クリスチャンの兄弟姉妹に対してです。それは、あなたにとっても、相手にとっても、キリストとその教会にとっても健全ではありません。苦い根を取り除き、その人を赦さなければなりません。そうしないと天の父があなたを赦してくださらないのです。（救いを失う、という話ではありません。しかし、あなたのために備えられた祝福を逃すことにはなるでしょう。）1990年代後半は、私にとって失われた時代だったような気がします。教会では多少活動していましたが、ほとんど役に立ちませんでした。赦さない態度を悔い改めた後、主は私を御国のためにさらに用いてくださいました。

愛

マタイ 22:35-40 にはこうあります。

22:35 そして彼らのうちの一人、律法の専門家がイエスを試そうとして尋ねた。22:36 「先生、律法の中でどの戒めが一番重要ですか。」22:37 イエスは彼に言われた。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』22:38 これが、重要な第一の戒めです。22:39 『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。22:40 この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。」

重要な第一の戒めです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』という第二の戒めも、それと同じように重要です。

ヨハネ 13:34-35

13:34 わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。13:35 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

神の家族である私たちが互いに愛し合うなら、世間は私たちがイエス・キリストの本物の弟子であることを知るようになります。

ヨハネ第一 3:17-18

3:17 この世の財を持ちながら、自分の兄弟が困っているのを見ても、その人に対してあわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているのでしょうか。3:18 子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。

兄弟間の愛は、私たちの行いや誠実な生き方によって目に見えるかたちであらわされるべきです。

励まし

私の好きな聖書箇所のひとつです。

ヘブル 10:24-25

10:24 また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。 10:25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

私たちはお互いに励まし合うべきです。25 節は、教会に来ることを怠ってはいけないと語ります。教会に来なければ、兄弟姉妹を励ますことも励まされることもできません。私たちはお互いに励まし合うべきです。主との歩みに忠実であり続けるために、愛や善行の実践を促すために、そして落ち込んでいるときには元気づけるためにです。

テサロニケ第一 5:11 ですからあなたがたは、現に行っているとおり、互いに励まし合い、互いを高め合いなさい。

私たちはお互いに高め合うべきで、こき下ろすべきではありません。いろんなかたちで人をだめにする可能性があります、それは避けるべきです。

エペソ 4:29 悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい。

ローマ 14:19 ですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう。

言葉に気を付けましょう。人をけなさず、適切な言葉で平和を求めて、互いに高め合いましょう。

私はもうすぐシニア世代に突入します。そして、人生の終わりがやってきます。この数年間、この地球上で、またキリストの教会で、少なくともマイナスではなくプラスの影響を与えてきたと願いたいと思っています。失望や恨みではなく、励ましの前向きな言葉を、と。クリスチャンが恨み言を言っているのを見たこともありますし、自分自身、そのような時期を経て思うのは、そんな人生にしたくない、ということです。ネガティブではなくポジティブな影響を与えることを目指しましょう。助けてくださる聖霊に信頼して、そうしましょう。

コロサイ 3:8-9

3:8 しかし今は、これらすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、ののしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを捨てなさい。3:9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは古い人をその行いとともに脱ぎ捨てて、

結論

このメッセージの前半で、第一ペテロ 5 章 1~4 節を引用しましたが、ペテロは長老たちに、進んで熱心に神の群れを牧するようにと勧めています。

第一ペテロ 5:5 を読んで今日のメッセージを締めくくりたいと思います。

同じように、若い人たちよ、長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。

「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

私たちは皆、お互いに謙虚さを身に着けなさいと勧められています。謙遜さです。へりくだった態度で、互いに愛し、赦し、励まし合いましょう。